

2016
8月

Sasaiレポ

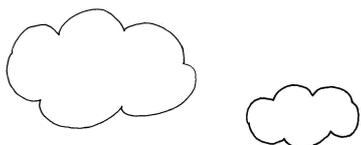
発行/佐佐井株式会社
北九州市小倉南区上曽根新町 2-25
☎093-472-1335
FAX 093-472-1790
http://www.bf331.com

九州のスーパー生き残りへ統合 マルキョウとリテール

【福岡】九州で地場スーパーの合従連衡が本格化してきた。マルキョウはリテールパートナーズと来年3月に経営統合すると発表した。売上高は2千億円規模となり、九州でイオン九州とイズミに次ぐ第三極になる。統合後は物流の共通化や店舗統廃合で収益力を高め、地方連合で競争の激しい流通業界で生き残りを図る。

マルキョウは福岡県を地盤に食品スーパー88店舗（2015年9月期末時点）を展開する。前期の売上高は844億円で、九州で7位につけている。

リテールパートナーズは15年に山口県地盤の丸久と大分県を中心に展開するマルミヤストアが統合し発足。マルキョウと単純合計した前期の売上高は1982億円。



サイゼリヤ、パスタ専門店 コンビニ弁当に勝負挑む

ファミリーレストラン大手のサイゼリヤが、パスタのファストフード運営に乗り出した。コンビニ商品や冷凍食品の品質が高く、競争環境が厳しいとされる市場で、提供時間の短さや本格的なパスタ料理を強みとして競合に挑む。

7日に1号店「スパゲッティ マリアーノ日本橋茅場町店」を開いた。メニューは注文後に店員がフライパンで調理し、持ち帰り可能なカフェ風の容器で出す。サラダと飲料付きの「ランチセット」はワンコインの500円で、夕食時には単品（470円）や前菜やグラスワイン（120円）などを用意する。スパゲティはコンビニ弁当や冷凍食品、乾麺などの商品力が高く、パスタで成功したファストフード業態は少ない。マリアーノが成功するためには、本格的なスパゲティを追求しつつ、新たな食事スタイルを創出することが不可欠だ。その半面、いったん「サイゼリヤ」が出店できなかった立地に対応できる業態として確立すれば、サイゼリヤに次ぐ同社の新たな成長エンジンになりうる。

--- コンビニエンスストア調査 ---

3強シェア争い激しく

2015年度の国内のコンビニエンスストアは14年度に比べて全店舗売上高が伸びただけでなく、総店舗数は5万6427店で、伸び率は2.8%増（同28社）となった。消費者の支持を背景に、大手3社が積極的に出店を続けたほか、15年度は業界再編で3社への寡占化が一層進んでいる。

コンビニ大手5社では引き続き最大手のセブンイレブン・ジャパンが売り上げを伸ばしている。ローソンとファミリーマートも堅調な伸びを示している。一方で企業別のシェアで見ると16年度は大きな変化が起きる。ファミリーマートと、サークルKサンクスを傘下に持つユニーグループ・ホールディングスは9月に経営統合する。統合を控えるファミマとサークルKサンクスの合算は29.1%まで拡大し2位に浮上する。

-日経MJ2016.7.27-

■全店舗売上高ランキング

順位	店名	系列	全店舗年間売上高（百万円）
1	セブンイレブン	セブン&アイ・ホールディングス	4,291,067
2	ローソン	三菱商事	2,360,538
3	ファミリーマート	伊藤忠商事	2,005,580
4	サークルKサンクス	ユニーグループ・ホールディングス	936,710
5	ミニストップ	イオン	336,332
6	デイリーヤマザキ	独立系	186,447
7	セイコーマート	独立系	184,775
8	NEWDAYS NewDays	東日本旅客鉄道	101,909
9	スリーエフ	独立系	79,763
10	ポプラ	独立系	62,357